

要害山城(要害城, 積翠山城, 丸山の城, 石水寺城) (国史跡, 続百名城)

(甲府市上積翠寺町)

要害山城（ようがいやまじょう）は、山梨県甲府市上積翠寺町（かみせきすいじまち）にあった日本の城。躑躅ヶ崎館（武田氏館跡）の詰城として築かれた山城である。平成3年（1991年）、国の史跡に指定された。要害城、積翠山城とも呼ばれる。

立地

所在する甲府市上積翠寺町は甲府盆地周縁の中央北部、相川扇状地の扇頂部に位置する。標高770メートルの丸山と呼ばれる要害山中腹の傾斜地を中心に築かれている。

沿革

『高白斎記』に拠れば、築城は武田信虎時代の永正17年（1520年）6月であるという。武田氏は前年に居館を石和の川田館（甲府市川田町）から躑躅ヶ崎館（甲府市古府中町）へ移しており、駒井政武の領地であった積翠寺郷の丸山が城として取り立てられ、館の詰城として砦や狼煙台が築かれたという。

同年には駿河の今川氏勢の武将福島正成が駿州往還（河内路）を甲斐へ侵攻し甲府へ迫っており、信虎は正室の大井夫人を避難させ福島勢を駆逐しているが、夫人はその最中に城中で嫡男（後の武田晴信）を出産したという。

勝頼期の天正4年（1576年）6月1日付武田家朱印状に拠れば、武田氏は要害城より西方に位置する帯那郷（甲府市上帯那町・下帯那町）に対して要害城の普請への召し出しを命じており、帯那郷への河除（堤防普請）と他の諸普請の一切を免除している。『甲陽軍鑑』『甲斐国志』によれば、武田氏時代の城番は駒井次郎左衛門・武藤山城・駒井昌直（右京亮）が務めたという。

武田氏滅亡後、徳川氏の支配期を経て豊臣系大名が入城し、加藤光泰により修築が行われた。文禄年間の修築を示す遺構として穴太積みの石垣が見られる。

『甲斐国志』によれば、慶長5年（1600年）の関ヶ原の戦いの後に甲斐は再び徳川氏が領し、廃城となったという。

2017年（平成29年）4月6日、続日本100名城（128番）に選定された。

熊城

要害城の支城として熊城がある。熊城は標高730メートル付近に立地し、一直線上の小規模な郭と堀切・堅堀、石垣が遺構として残されている。熊城に至る案内板は一切無い為、訪城には注意が必要である。

史跡指定

主郭に至る通路や枡形、曲輪、堀切、見張台等の遺構のほか、要所をかためる石垣もほぼ完全に遺存しており、戦国大名武田氏の築いた城郭として、また、中世豪族の居住形態を示すものとして極めて重要であるとして、1991年3月30日、「要害山（ようがいさん）」の名称で国の史跡に指定されたが、主郭以外の整備は行き届いておらず、郭は藪化している所も多い。登山口に説明版が有るが、それ以外、主郭などには解説、説明版のたぐいは無い。（土塁、門跡、等のサインは有る。）城に至るまでの案内板は無い、また観光案内所にも要害山城としてのパンフレットは無い。

アクセス

甲府駅よりバスで 積翠寺下バス停まで約20分弱、そこから要害温泉と要害山城登山口まで、徒歩約15分、登山口より主郭まで約30～40分。（バスの本数は極めて少ないので、要注意）

もしくは甲府駅周辺でレンタサイクルで登山口まで約30～40分程度。

その他 冬場を除き熊出没要注意。

Wikipediaによる

